



三教竟喻

附錄



門口 9
1053
卷 4



三教童喻 附録

夫良薬は苦みて病は利有金言耳
逆ふて行は利有先良薬は身は患災に
あ長寿を保変第一の功能なり邪欲
を去ら安ん安ん都て家計衰微する人
痛く生ず其病根は相續人の不守り
起る邪欲を去るん安ん安ん長寿に至る変

三教童喻附録



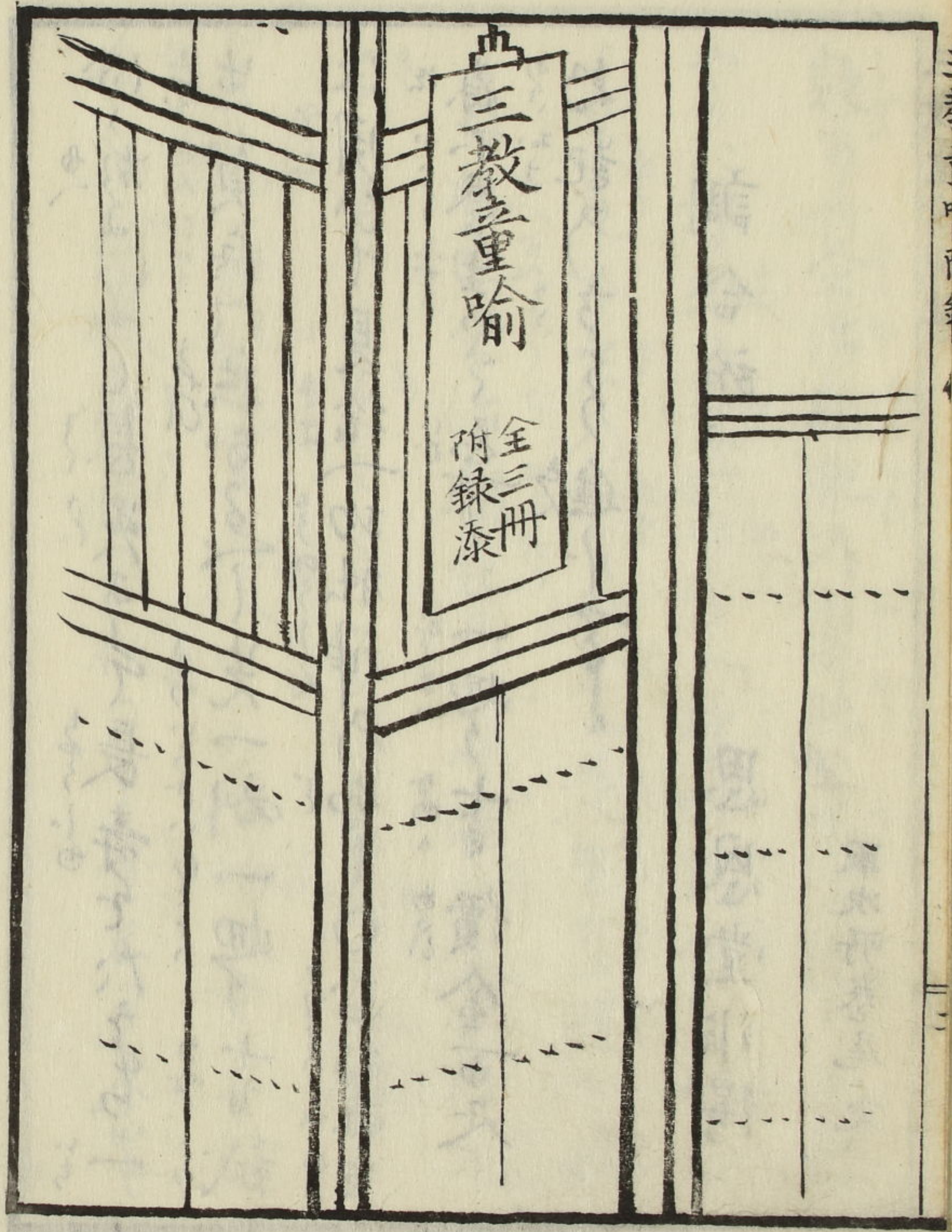
三孝堂明下金
疑り灸治朝起乃藥能の宋を糲くま先
やりにすおる宋村市きの厚味肉食を好む
より生るや宋乃市きふ玉ル是皆空腹を能
らぬ故也灸治朝起乃二味の中をまばえ
字にましひ足をもとやうになを能よ身體う
ごき動をもおろづる彼中これ物をすせば
食をむゆ一麻菜乃厭り一麻菜を食を

ふがなよし見災あり長寿をたさち一
生貧病れ愁あるべし先一劑一廻り七日試
に用いて見給一功能神入なり○尤の森を
森不養生かて忌一廻り七日價金百足
の起る方より進んで

調合所

思恩堂非得

取次所卷尾記ス



三教童諭 附録

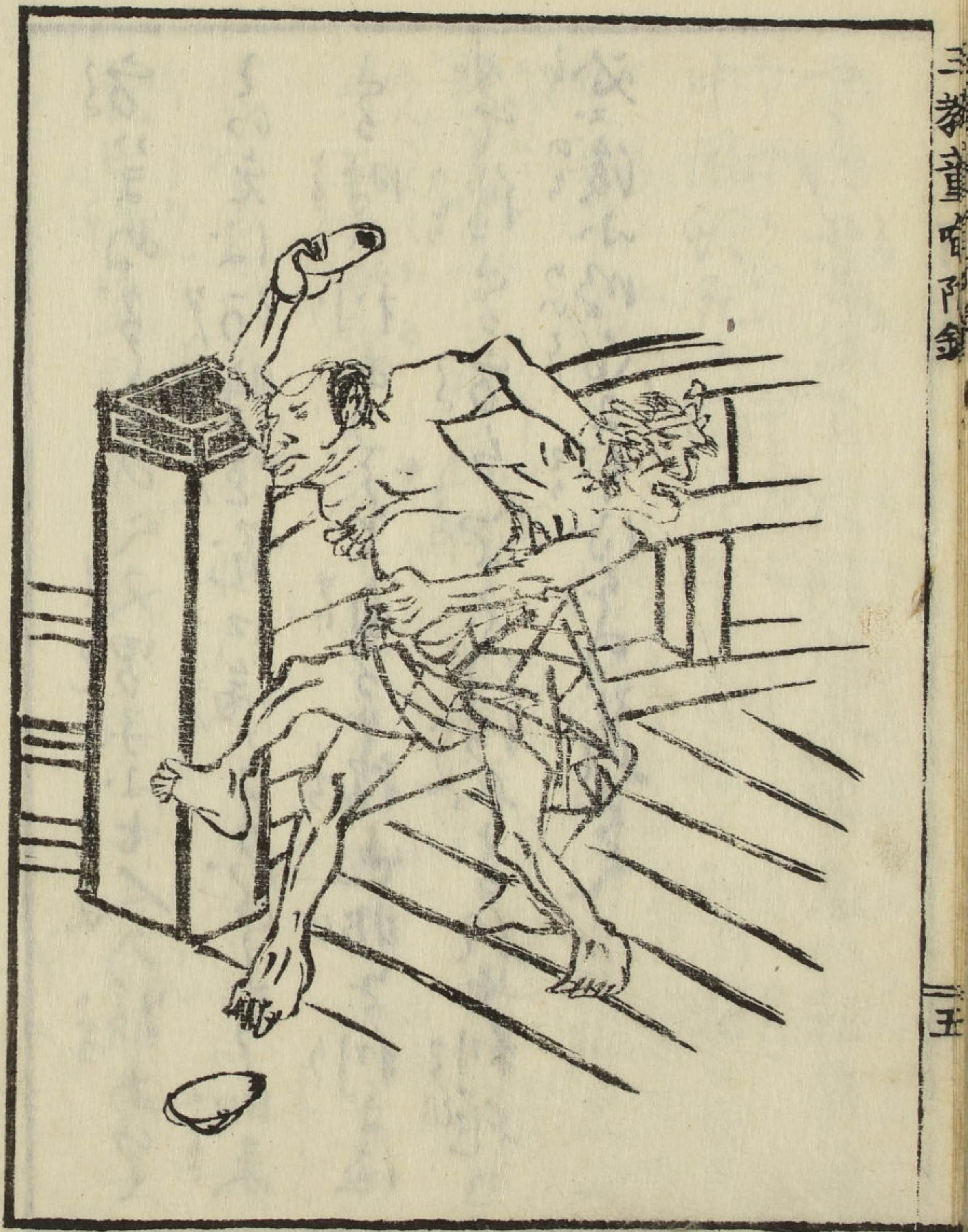
凡世の中の人親子はふ不及夫婦兄弟の
ほりけ徳義をせむしつあぐ又下人の殊に
懐疑し先門御う曰く主親の名利ある
老と下人の事らぬ老と知べしと傳せら
まろ下人をしれかく召使ふに不繁昌の
基あるべし禍福の唯家内を和順と不和と

あり禍後門を唯招ふは来るるゆゑか
 家には有るものにけり只かゝるは依て負
 後に来る世は是れは門は後来るといふと
 何はぞおどろさるるや笑ふとてうらやま
 たのこゝ限り有獨招ふと思へ二人あり
 一人は貧人、後ふ付添居るなり面を笑ふ
 とて笑ひて求むべしと笑ひまはるるづら

面は笑ふなり又何の榮むるとを南ひ
 敏思ふて年々内證入増金はる程入面
 白き人へ笑ふかきとせしむるに南す
 門へおつづる客来るそ人來まば二人
 一人は後人、後には身添居る也家内和
 順證の心入知ふなるべし亦可悲い火災
 也他より来るは是非なり家内に起るぬ

中風死に病是等いふ振く入程より
 と垂て信ふと一信力堅固門災禍を
 起といふ神儒佛入を信に必し
 身三口回意三乃十忠業計起るを悉く
 信人きき受とて信む人を信心といふ又
 呪は病盜殺ハ不斬子用人ふ由り大

ちまぬるを又男子七人の故あり
 といえは何時に病に満るうがうそ出来
 する時ハ利ありとて負うが程也非を利は
 かく得る方とてふべ何れとれを利程ハ
 必後小明白ふかふそのれなり



又女子れん得ん悟る娘の第一の婦を
 子を生ずる家名を續う爲之
 子ある時又妾をといふを孫れん
 妾を思ふといふは母を老け利
 と云ふも悟る娘の第一の婦を
 子を生ずる家名を續う爲之
 子ある時又妾をといふを孫れん
 妾を思ふといふは母を老け利

[illegible]

○昔^{むかし}越後^{えちご}の國^{くに}と大坂^{おさか}といふ老^{おい}のふと
次^{つぎ}郎^{らう}といふあつ軟^{おち}のふと大坂^{おさか}ハ放逸^{ほういつ}して相^{あひ}害^{がい}
殺^{ころ}生^{せい}を好^{この}む唯^{ただ}三惡道^{さんあくどう}の種^{くさね}を申^{まを}れふと次^{つぎ}

郎をいかに固縁つうてゝ幼推の時うら
 我れ推ひふる仏を宗り供養をすすを
 中人は推ひ仏を宗り供養をすすを
 にむをいひて仏法をすふていへるを
 色も薄くあり終に善提を求めたるは彼
 土の所を父をさとせしと同日に満ち
 又彼所を父をさとせしと同日に満ち

老る父を以て捨る國の父を半れむとの
 背は是も國を以て捨るに似たりは父を捨る
 人なりとてあてなるを以てり蓋しお
 けり親を以ての背は是も親を以てり
 此れは國を以て捨るに似たりは父を捨る
 人なりとてあてなるを以てり蓋しお
 けり親を以ての背は是も親を以てり

師より父を以て捨る國の父を半れむとの
 背は是も國を以て捨るに似たりは父を捨る
 人なりとてあてなるを以てり蓋しお
 けり親を以ての背は是も親を以てり

奥山に紫杉ありて其の葉を以て
 人なりとてあてなるを以てり蓋しお



又ふる若菜を新あらたく南北なんぼくを辨わきまつやうは
 かへは先生せんせい主しゅのふと并ならべづー先母せんぼ入い
 胎肉たいにくはやうゆう十月じゅうがつのふらふとけり
 有りあり生なままゆゆの若わか菜さいの青あへ味あじをひ
 しぐといふ父ちちをさきさきにそへていふは
 つたおき新あらたく平へい年ねんのふと安やすく存ぞんま
 うと神かみ仏ぶつ入い利り生なまを傳あゆぐより外ほかあるづー

乳ちちは神かみ佛ぶつ入い慈あはれま依よて出生しゅっしゅをいふとど
 う親おやれ菜さいに有あり又またふたどい乳ちちをいふとど
 又また育そだれ若わか菜さい多おほくるに位くらい時ときにむすこ一ひと
 うとまの懐かみよりうおのめをばて乳ちちを
 甘あまふ方かたにけり未いまだ記しるす時ときに表あらわてけり
 けり店みせをめりしうと遠とほく急いそいで肉にく一ひと
 もはふべと親おや入いふのふとあひをいふとど

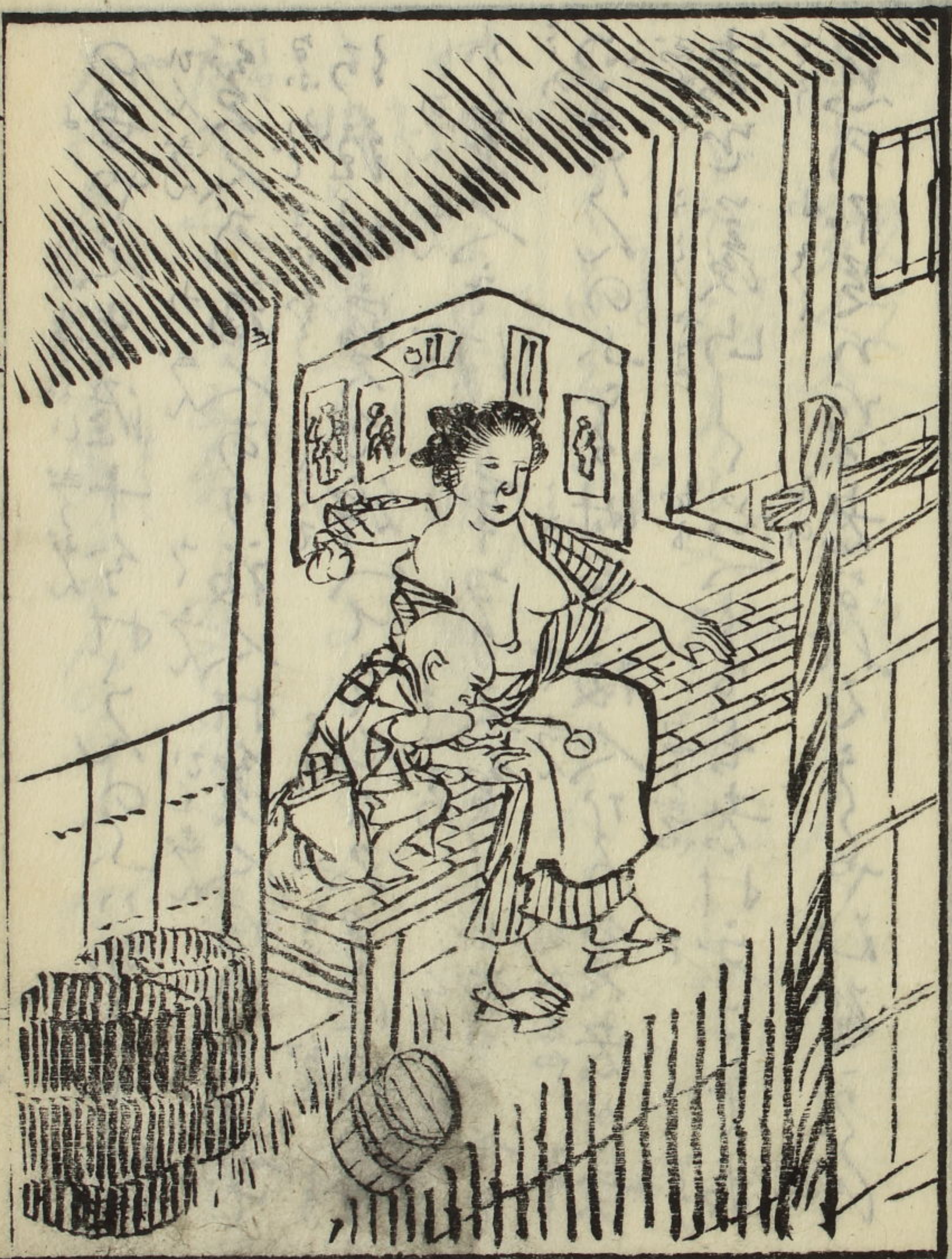
此内よりいふまじく時入親の心い
 らうらんや是一朝一夕の事や
 あべ能までも十七日ともは並にけ
 まは是等の事をきぬやひ之事也
 といふ事をいひ親入思ひ候き変化新
 命一命乳を絶て方にいひ候き事なり
 といふ絶てが陰はあべに此等の父母入ん

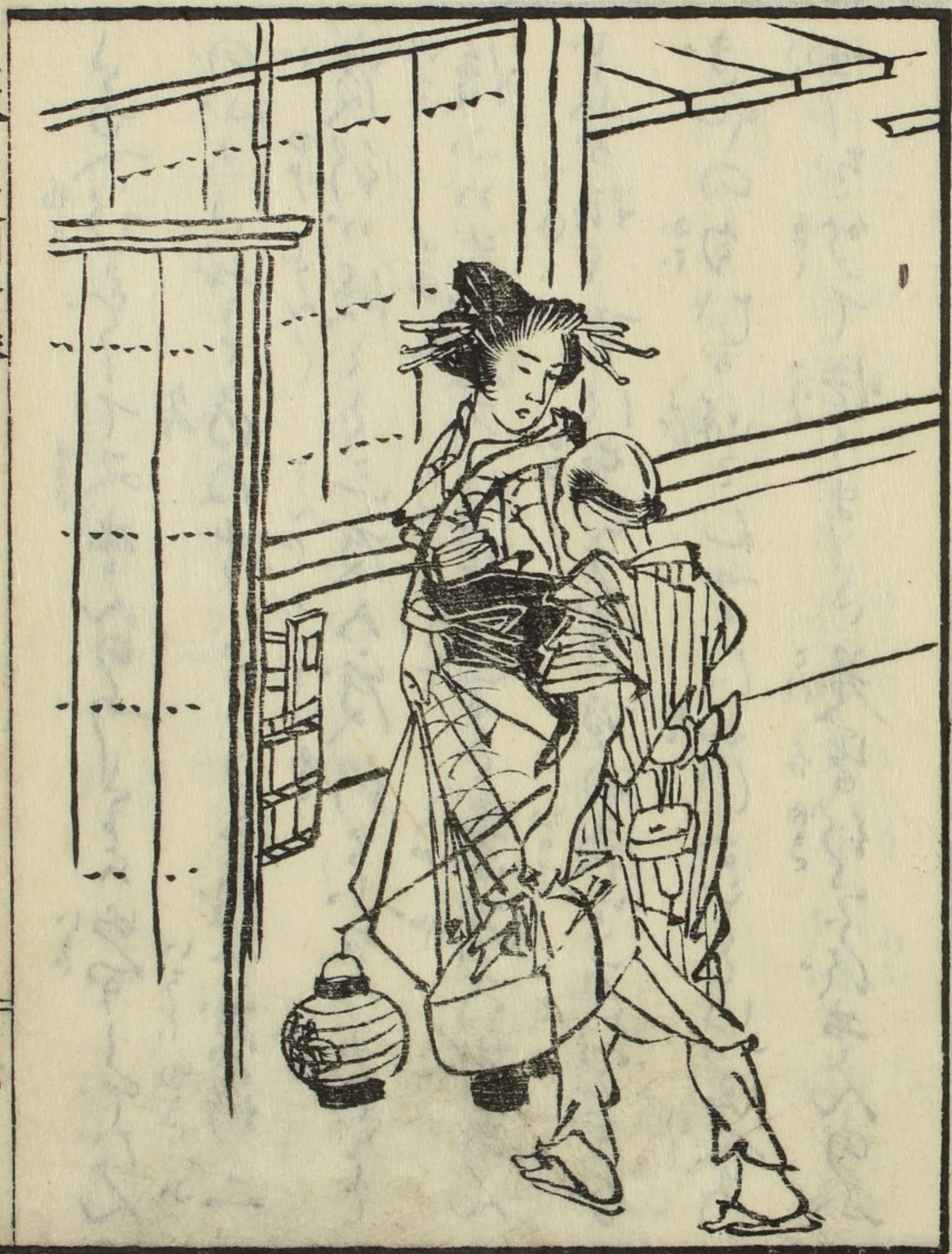
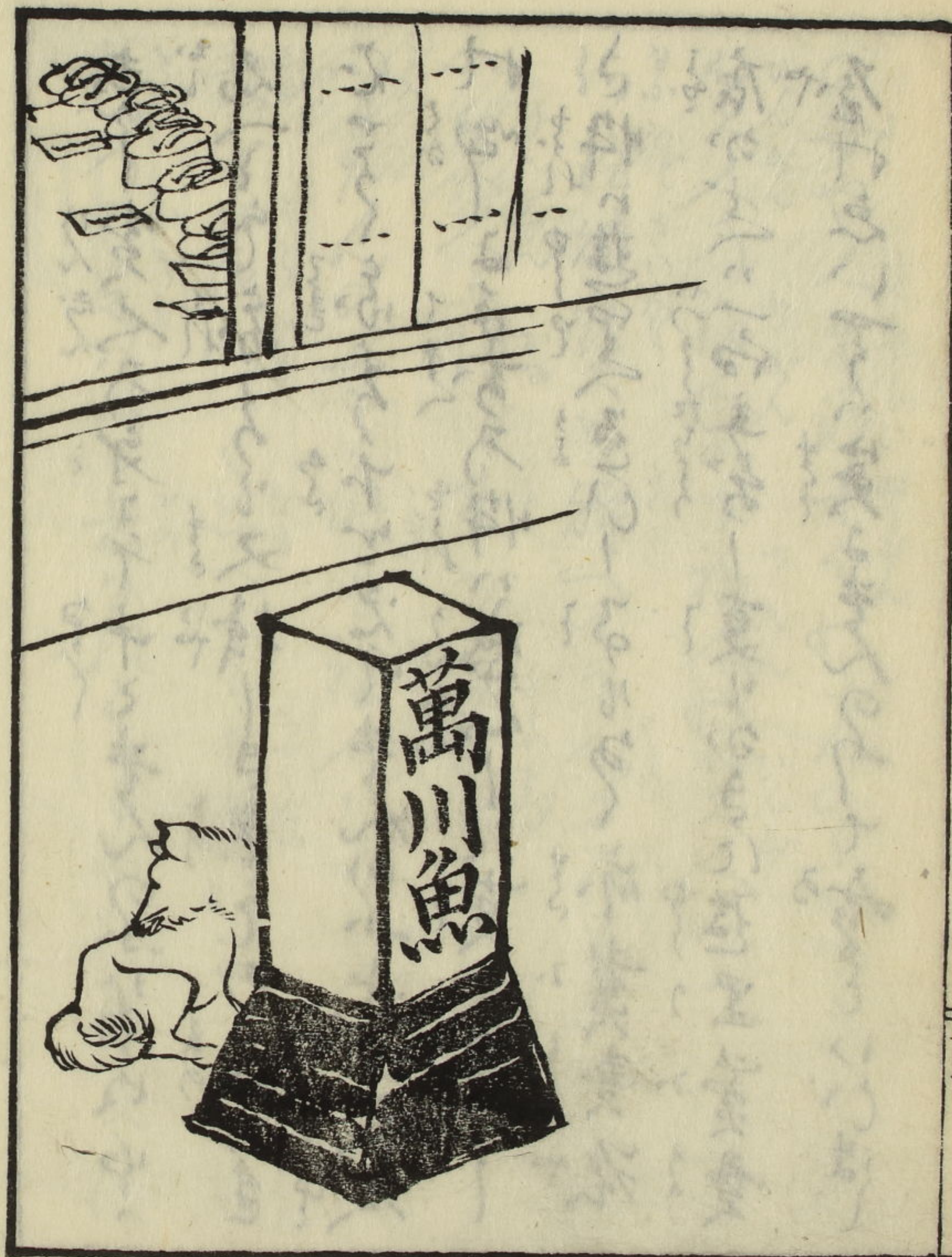
若しある老い思ひ入るべし親孝の心
 といひしはうき事なりあべに常小息
 災を親を親よとせて心を候しむるが
 孝なり老年の父母を親父と父母
 いふ病入事を候ふと聖人も曰はる
 らるる大は大会を候し或は折違色
 情をいふいすめ放蕩をなすまは病

けせぬ老^よを^{あら}とつ^はぬ^はざる^が故^{ゆゑ}に^病を
 ち^て父母^{ふぼ}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及
 け^時に^又母^はれ^かぎ^きも^いふ^はら^へぬ^之
 け^かぎ^不孝^とある^此の^まは^らぬ^之
 か^ぎて^をれ^れた^大なる^やま^らハ^{ある}
 づ^又も^る親^{おや}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及
 ぶ^い親^{おや}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及
 ぶ^い親^{おや}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及

き^割ふ^のを^いふ^はら^ぬ
 ぶ^い親^{おや}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及

中^のま^はら^ぬ
 ぶ^い親^{おや}の^{こころ}を^さり^める^又一^ふふ^及





一統はそまゝあつて中しうつゝあるもので
あつて此子恩のふが十分けし人のふよきふに
免角七八分めが半人のふよきふが千分
命のえとをまわつてせめて実ふかりて終
家を花をもらしる者なまばおれ情に――亦
性也てわけはぬぬなれどけ廊入を責
と一夜うちぎりて情ふれぬと終るまじ

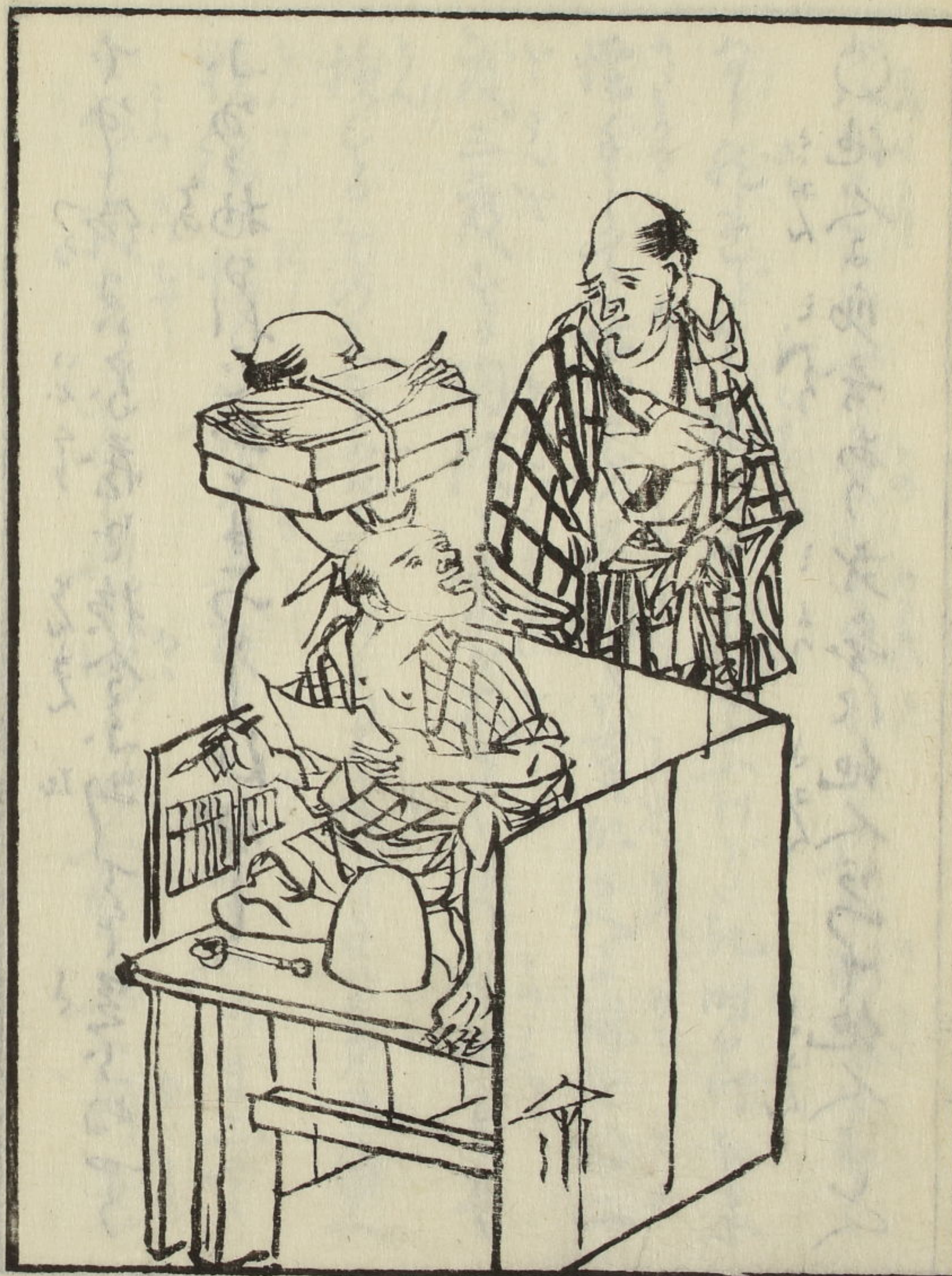
の慰まは格ふちりて――にやがてく後
まに義理し不実が起るやふなり日は奉
人可受づて世さうの報ふ入ま惑とれ
ばそを勿論親をうかばきといひ先祖
けえをほをうにちるなりけり時を何や家
智あつて居るぬぬその不実のあよう
るい手訓ぬまぬぬをいふ人て終るえと十

が八九さいふる老へあが少いれど利徳もそ
 中我まぎを働きてさふけざれば時節あふ
 懐きしそ我あが只儲のまぬ味を二
 夜三夜も内修もあがたまうなりを肉を
 換るそのこそあふいそ中換るい多き申
 換るが惜りなりそ夜も合うやあまきやう
 とふ変定しそふれど中へふむふり老

下中後はい家を換ふ出てもさふぬやう
 小の抽れどおとまづし心合

○他人は所ああり身家に他人より他人より





其内は作女く極悪厳密に身を考め終る
 のべ 時色少々亡命せしとて二親の身を食の
 死骸をとりて食をえ合せし外の変で
 るる養父を家破るまじ恨みあるをえの
 義理をいひ忠をせしめけしりきぬにあり
 る是は皆ふ保りありとるを不情は実父に
 體を胸実きりて如くとてせんなく

多る泣き居る泣き去る泣き居る何事
 皆因縁ありとまゝあるは縁うさるふそ
 の家を潰させん子とをさる老母ふま
 婦人十の百年の責めよりて安んずる
 子の零落是とも世うけ因縁ある
 とふは実父をいやり只うつむいては
 ばうねる彼将あがけし時男もやうふ

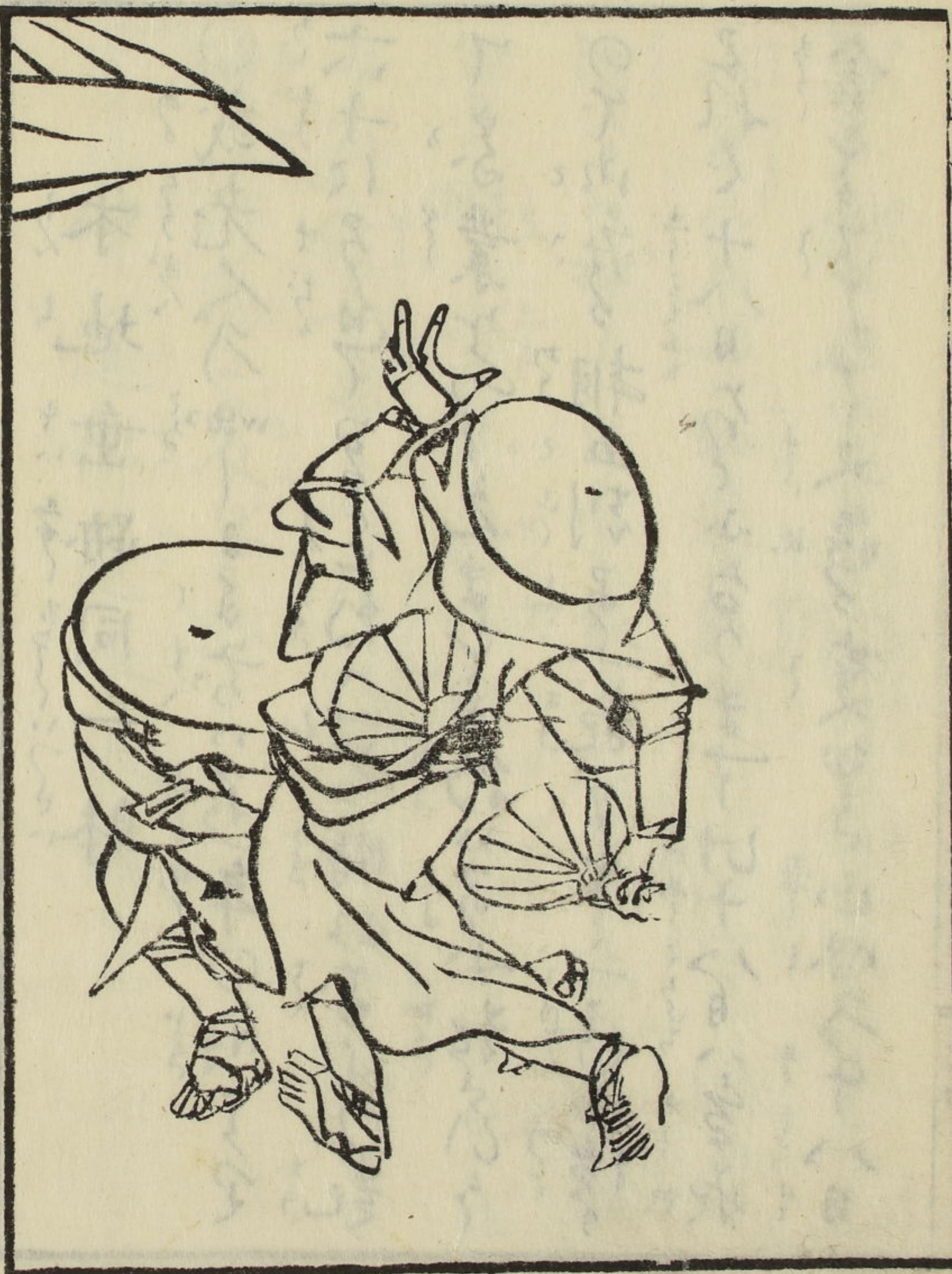
て母法を小悦するが今やの世に於ては
まいふといはるを元とふが有てはふとふが
あふと有てはるを元とふが有てはふとふが
うやとて変めん

○都て中言を伝ふる老い折るる世の玉を
老くくがやうとて双方皆てあはれとて主入
情祝の慈悲なるが中言とて老いといつて

くをくく又神道をてて仏法を破し仏を
てて神をててある老い皆双方皆意味の
きききききききききききききききき
はは慈悲のる中神とてききき慈悲の
まをるをてててててててててててて
かふはまおとふとてててててててて
皆て神といふるハ別神道也亦以て丸を

赤き衣をばきしは是に似たり
又傘の如く入るなりと云ふ紙より
張るの神といふを表しなむを紙にて紙
をかき時々の神に似たり神仏慈悲一致ありて万民
これ終ふ事に入廣大なる変じりなり
神仏れ満ち及ぶべし

神道佛道水波隔



ちまばま^{さんきやう}に二十日^ふをけ^{あひ}合^あま^あれ^あて
何^{なん}れ^れ平^{へい}ふ^ふ都^とて^て家^け業^{ぎやう}を^をつ^つあ^あま^ませ^せび^びに^にに^に
て^て合^あま^まは^はお^おつ^つり^りお^お平^{へい}ふ^ふ起^きま^まて^てま^まば^ば定^{じやう}て^て合^あ
ふ^ふふ^ふ後^ごる^るや^やあ^あふ^ふ思^{おも}ひ^ひや^やう^うが^がい^いは^はを^を用^{よう}変^{へん}
ら^らへ^へま^まだ^だ女^{にょ}時^じ限^{げん}り^り小^{せう}後^ごま^ます^す又^{また}用^{よう}変^{へん}が^があ^あれ
む^む四^しの^の九^くも^も勤^{きん}て^ても^もや^やう^うら^らい^いふ^ふあ^あふ^ふ起^きま^まれ
あ^あう^うつ^つあ^あふ^ふや^やう^うの^のや^やう^うなる^{なる}又^{また}あ^あふ^ふい^いは^は廿^{じふ}年^{ねん}

福^{ふく}の^のう^うも^もに^に両^{りやう}夜^やり^りで^で信^{しん}憑^{ぽう}う^う下^げ路^ろに^に入^いる^るを^を
見^み物^{ぶつ}は^は初^{しう}ま^まと^とさ^さ四^し五^ご十^{じふ}日^{にち}と^とか^かつ^つと^とま^ます^す又^{また}五^ご日^{にち}
十^{じふ}日^{にち}に^に返^{へん}國^{こく}う^う強^{きやう}い^い夜^やと^とい^いう^うは^はた^たを^を夜^や毎^{まい}
小^{せう}路^ろ用^{よう}と^と餘^よを^をど^どい^いつ^つま^ます^すと^とが^がを^を路^ろ用^{よう}い^いは^はれ^れる^る
あ^あう^うも^もあ^あふ^ふえ^えま^まと^とれ^れば^ば毎^{まい}日^{にち}五^ご刻^{こく}平^{へい}ふ^ふ起^きま^ま
ま^まだ^だ五^ご刻^{こく}の^のつ^つを^をう^うが^が一^{いち}年^{ねん}に^に二十^{じふ}日^{にち}操^{そう}合^あら^らと^と
余^よ日^{にち}が^が出^で来^きま^まれ^れけ^け一^{いち}日^{にち}と^とか^かつ^つ儲^{もく}と^とれ^れと^と一^{いち}



一年に十八日死んで居るを因縁で出する命も五
 十歳は三年余りもちがする道程でよく
 命は抽れて居るけれどお新で命を延べし出
 情しゝゝお老で出するがお世でいゝので儲け
 多ひるふかれを自らふきひの多きかみで
 命をとりぬすけふあつて居るをいゝけのち
 賣はふちもちういすれど梅は一年に三人

のび　ふらぐ　こゝろ　あつたのび　いぢや
 延て大木を楠と一事に一寸延て大木あ
 るぬゆゑはけりなるれむさひよつきと朝
 ふる起る家業とせし出でんといふ目ふ
 えぬぞそその中なるものをいとむ人づ
 かされまへにいふなぬ茶がほをついで
 ううといふこと類ひにならねす

三教童子傳
 徳難圖
 晨五あさご冠こう早起ごき劬業くわくごう一年潤十八日
 餘五十あまご壽しう命延三歳叶天理獲
 徳難圖

ねふあつ眞め加がねがやうやうごんごんを
 長ちやう命めいをいいのぬぬ人ひとををああうううううう
 ままままののううばばねねねねををせせまま

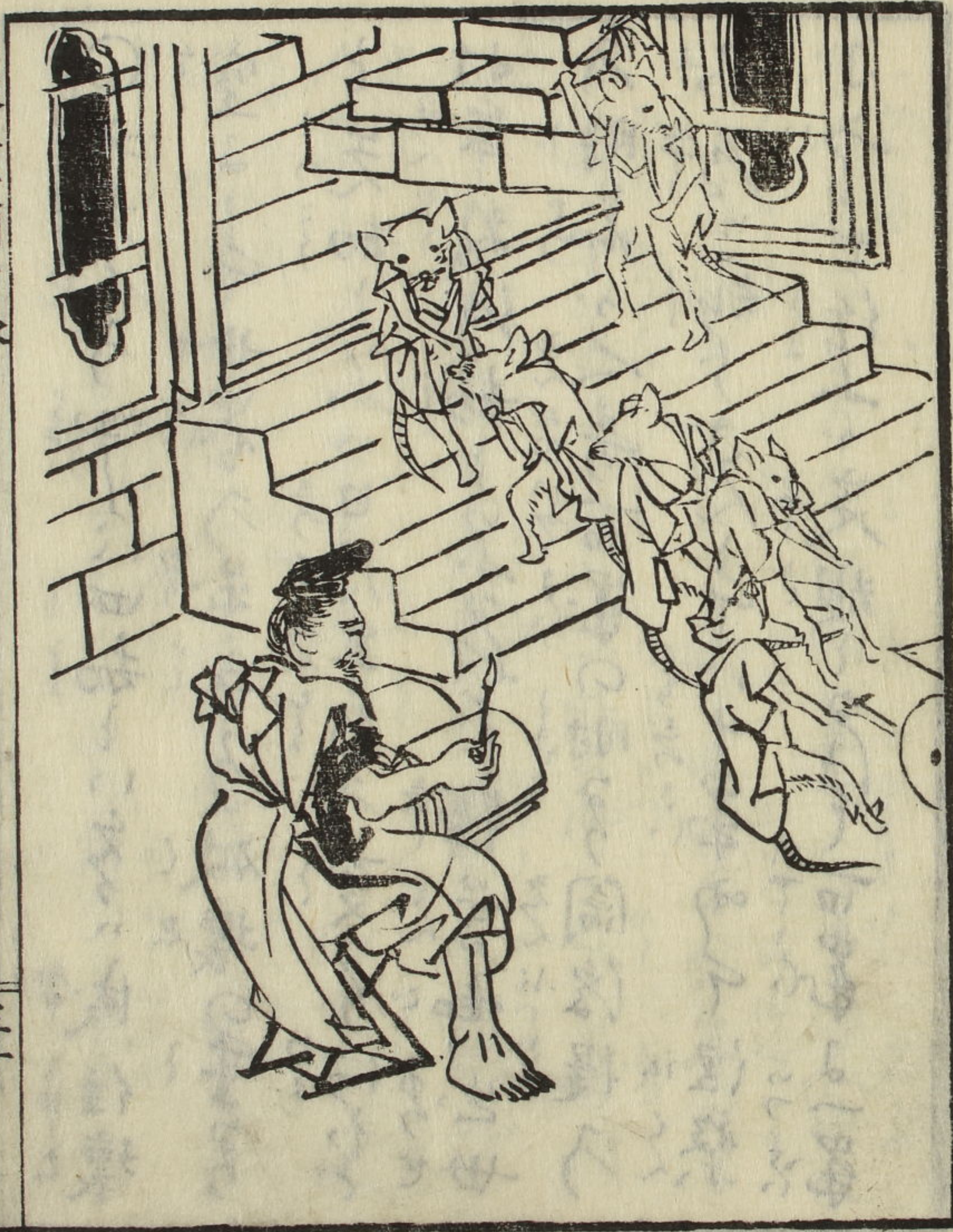




あき
おき
や

い
く
な
ど

は
こ
が
は



○又老人の世に四劫といふは成住壞
 空より世の中へ生立ちて破壞の事なり
 と先劫といふは日月年教へ交り何れと
 け年教へ初より終るまで釋尊御出世
 入時節が人壽百歳の時より闍維提へ
 不為と云ふ人壽八十歳より涅槃
 小つて終るが定規と云ふは百歳より一歳

づ人壽ちまう今け時ハ五十二歳より人壽
 順に百歳より一歳づ減して四の余年なる
 と若く十歳より一歳づ減して四の余年なる
 減し半の底より又まう百歳より一歳づ
 人壽ちまう四の余年なる今け時より人
 壽也まう逆参りて人壽ハ一の歳まで
 増長し半の所より天并り此ハ百歳より

十^{じふ}年^{ねん}と^と入^い付^け来^き二十^{にじふ}夜^やを^を一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま
 時^{とき}も二十^{にじふ}増^{ぞう}減^{げん}入^い第^{だい}九^く夜^や目^めの^の極^{ごく}と^とい^いく
 ま^ま一^{いち}統^とと^と今^{いま}の^の時^{とき}を^を任^{にん}劫^{こく}ち^ちけ^け任^{にん}劫^{こく}う^う一^{いち}
 劫^{こく}と^とい^いま^まと^と壞^え劫^{こく}ふ^ふう^うと^と壞^え劫^{こく}入^い一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^ま
 と^と空^{くう}劫^{こく}ふ^ふう^うと^と空^{くう}劫^{こく}け^け一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^まと^と成^{じやう}劫^{こく}
 け^けか^かる^ると^と空^{くう}劫^{こく}ふ^ふう^う成^{じやう}劫^{こく}ふ^ふう^う今^{いま}の^の時^{とき}ハ^ハ極^{ごく}微^み
 と^とい^いま^ま塵^{ちん}埃^{あい}や^や入^いお^おが^がう^う今^{いま}の^の時^{とき}ハ^ハ極^{ごく}微^み

積^{しやく}り^りて^て世^せ界^{かい}と^とい^いふ^ふは^はい^いま^まの^の時^{とき}ハ^ハ極^{ごく}微^み
 一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^まと^と壞^え劫^{こく}ふ^ふう^うと^と壞^え劫^{こく}入^い一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^ま
 一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^まと^と壞^え劫^{こく}ふ^ふう^うと^と壞^え劫^{こく}入^い一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^ま
 一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^まと^と壞^え劫^{こく}ふ^ふう^うと^と壞^え劫^{こく}入^い一^{いち}劫^{こく}と^とい^いま^ま

三教童蒙附錄尾

思恩堂非得

芳田月長



文政三歲庚辰八月發行

大坂長堀橋北詰東

大和屋四郎兵衛板

忠孝道の柴折

全三冊

しき、四恩^{しよん}を解^{とげ}して、戯画^{ぎが}でまじりあらし
忠孝のたゞさに、童男^{どうなん}兒女^{にど}として、
自^{みづか}らうそ言^{ごん}ふに、ひるのちまたのおこ

全三冊

此を五車とて汲りて

三教童喻

附錄

[illegible]

近刻

永田舞鳳堂筆

交通大全

全一冊

十六年^{ねんしう}終り^{れんまつ}年^{ねん}末^{まつ}迄^{いた}の文章^{ぶんしやう}中^{ちゆう}夜^やに
 商人^{しやうじん}要^{よう}用^{よう}の文章^{ぶんしやう}は^はけ^けち^ちり^りる^るる^るの^のち^ち
 出^でる^る女^{おんな}文章^{ぶんしやう}と^と出^でる^る男^{おんな}女^{おんな}要^{よう}用^{よう}に^に達^{たつ}と
 ち^ちり^りる^る女^{おんな}文章^{ぶんしやう}と^と出^でる^る男^{おんな}女^{おんな}要^{よう}用^{よう}に^に達^{たつ}と
 ち^ちり^りる^る女^{おんな}文章^{ぶんしやう}と^と出^でる^る男^{おんな}女^{おんな}要^{よう}用^{よう}に^に達^{たつ}と

